

立川市における

小児期からの総合的な健康づくりに関する研究

(分担研究：小児期からの健康増進対策に関する研究)

西田美佐、鶴田来美、佐藤秀紀、福渡 靖

はじめに

1992年度に立川市に在住していた3才児(1989年4月2日～1990年4月1日生まれ)全員を対象にコホート調査を開始した。初回調査は、1989年度に立川保健所で3才児健診を受診した1286名のうち、調査の主旨に賛同し、協力が得られた1148名分の調査票が回収された(回収率89.3%)。そのうち、住所・氏名が明記されていた1137名を、以後引き続き追跡している。

今年度は、立川市教育委員会、立川市立小学校校長会、各小学校の先生方のご協力の下、小学校に就学した児を対象に、第2回本調査を実施した。以下に第2回本調査の概略、及び次年度以降の計画について、簡単に報告する。

1. 1996年度 第2回本調査の概要

1-1. 調査対象

1996(平成8)年4月に、立川市の市立小学校に入学した1,360名に、1989年の初回調査の対象(当時立川市に在住していた3才児)で立川市外への転出者のうち、1996年4月の時点でも追跡が可能であった(住所が確認できていた)101名を加えた計1,461名を、第2回本調査の対象とした。尚、立川市の市立小学校に入学した1,360名には、第1回本調査から継続して追跡している対象児と、第1回本調査後に立川市に転入してきた児とが含まれている。後者の場

合も、本調査の主旨に同意し、協力が得られた場合は、今年度から新たにコホートの対象とすることとした。第3回本調査(小学校4年生時)も、同様の考え方で実施したい。

1-2. 調査の実施方法

第2回本調査は、立川市立小学校への就学児の場合と、立川市外へ転出した第1回本調査からの対象児の場合との、以下の2とおりの方法で実施した。

1-2-1. 立川市立小学校への就学児の場合

1996(平成8)年4月に立川市の市立小学校に就学した児の場合は、立川市教育委員会及び小学校長会、市福祉部健康課の関係者の方々に調査の目的やこれまでの経過、今後の計画等を説明し、協力を依頼し、理解・協力を得ることが出来た。調査票の配布の手順としては、順天堂大学にて調査担当者が、調査票とともに、各対象児の保護者にあてた説明・依頼文、返信用封筒を入れた封筒を対象児の人数分用意し、一括して教育委員会に送付したものを、教育委員会から連絡便で各小学校あてに送付した。各小学校毎に、対象の1年生の児童全員に調査票の入った封筒が渡され、児童を通じて各家庭に持ち帰ってもらう方法をとった。調査票の記入は、各家庭で行った後、回収に際しては、記入済みの同封した返信用封筒を用いて、小学校を通さずに、直接大学に返送してもらう方法をとった。

順天堂大学医学部公衆衛生学教室

(Dept. of Public Health, Juntendo University School of Medicine)

また、身体状況に関する調査として、立川市内の対象児の場合は、本人(保護者)の承諾が得られた場合に限り、就学時健診の結果のうち、身長、体重、視力、虫歯の本数等を転記することとし、調査票を配布する際に、その説明・依頼文と承諾書を同封した。7～8月にかけて、調査員が小学校へ出向き、調査票回収時に承諾書に署名・押印のあった対象の就学時健診の結果を、小学校の教員の立ち会いの下に転記した。

1-2-2. 立川市外へ転出した第1回本調査からの対象児の場合

立川市外へ転出した対象児への調査票の配布は、大学から直接対象児の家庭に、調査票、説明・依頼文、返信用封筒を郵送し、回収は立川市内の小学校に通う対象児の家庭と同様、大学に直接返送してもらう方法をとった。

1-3. 調査内容/項目

第2回調査内容/項目は、以下のとおり。

(全対象に共通の調査内容/項目)

- ① 質問紙調査(全対象)、健康と生活習慣、家族暦
- ② 発達に関する調査(①の質問紙調査に添付)
 - ・ 在胎週数
 - ・ 出生時 身長・体重
 - ・ 1才6ヶ月時 身長・体重

(立川市立小学校に通う対象児のうち、承諾書に署名押印のあった児のみ)

- ③ 就学時健康診断結果を調査員が転記
 - ・ 身長
 - ・ 体重
 - ・ むし歯の本数
 - ・ 視力

(立川市外へ転出した対象児)

- ・ 身長・体重(調査票に保護者が記入)

1-4. 主な結果

1-4-1. 回収数及び回収率

調査票は、1-1. で示したとおり1,461名に配布し、回収できたのは591名、回収率は40.5%であ

った。回収数及び率を立川市立小学校に就学した対象児と市外へ転出した対象児にみると、立川市立小学校への就学児は、配布数1,360名中515名からの回収で回収率は37.9%であった。一方、立川市外へ転出した第1回本調査からの対象児は、調査票の配布数101名に対し、回収数は76名で回収率は75.2%と立川市内の対象児に比較して高率であった。また、回収できた調査票591名分のうち、初回調査からの対象児は443名、1996年度からの新たに加わった対象児は148名であった。

以下は、回収できた591名分の調査票のうち、有効回答数579名分(うち男子287名(49.6%)、女子292名(50.4%))の集計結果である。

1-4-2. 生活習慣 (N=579)

① 食事の時間 (N=579)

	人数	%
決まっている	569	98.4
日によってちがう	9	1.6

② 朝食の摂食状況 (N=577)

	人数	%
毎日食べる	560	96.7
3～5回/週	16	2.8
1～2回/週	1	0.2

③ 朝食をとるにしている人(N=579,複数回答)

	人数	%
本人だけ	65	11.2
父	218	37.7
母	390	67.4
兄弟姉妹	435	75.1
祖父	20	1.7
祖母	32	2.8
その他	3	0.5

④ 夕食をともにする人(N=579,複数回答)

	人数	%
本人だけ	3	0.2
父	281	48.5
母	563	97.2
兄弟姉妹	497	85.8
祖父	49	3.3
祖母	76	13.1
その他	13	2.2

⑤ 夜食の摂食状況 (N=569)

	人数	%
毎日食べる	32	5.6
3~5回/週	13	2.3
1~2回/週	30	5.3
食べない	494	86.8

⑥ 平日の間食回数 (N=568)

	人数	%
2回以上/日	34	5.9
1回 / 日	486	85.6
1回 / 2~3日	37	6.5
食べない	11	1.9

⑦ 平日の間食時間 (N=525)

	人数	%
決まっている	326	62.1
日によってちがう	199	37.9

⑧ 休日の間食回数 (N=560)

	人数	%
2回以上/日	183	32.7
1回 / 日	328	58.6
1回 / 2~3日	26	4.6
食べない	23	4.1

⑨ 休日の間食時間 (N=528)

	人数	%
決まっている	174	30.1
日によってちがう	354	67.0

⑩ 飲み物を飲む時間 (N=561)

	人数	%
決まっている	188	33.5
欲しいときに飲む	373	66.5

⑪ 塾・習い事 (N=578)

	人数	%
している	431	74.6
していない	147	25.4

⑫ 塾・習い事に通う日数 (N=428,週あたり)

	人数	%
1日	177	41.4
2日	140	32.7
3日	84	19.6
4日	21	4.9
5日	4	0.9
6日	2	0.5

⑬ 習い事の行き帰りや途中に飲食するもの (N=88, 複数回答)

	人数	%
ジュース・コーラ等飲み物	50	56.8
お菓子	42	47.7
ファーストフード	8	9.1
弁当	2	2.3
その他	22	25.0

⑭ 排便の回数 (N=577)

	人数	%
2回以上/日	33	5.7
1回 / 日	420	72.5
1回 / 2日	106	18.3
1回 / 3日以下	18	3.1

⑮ 排便の時間 (N=577)

	人数	%
決まっている	55	9.5
大体決まっている	334	57.9
バラバラである	188	32.6

⑩ 子どもの健康 (N=577)

	人数	%
とても良い	262	45.4
まあ良い、ふつう	306	53.0
少し具合が悪い	9	1.6

⑪ 家庭で心がけていること(生活習慣)

(N=574)

	人数	%
栄養・食生活	295	51.4
むし歯予防	277	48.3
視力低下予防	202	35.2
運動・体力づくり	194	33.8
休養	146	25.4
その他	22	3.8
特になし	127	22.1

1-4-3. 身体状況について

以下に示した結果は、全て立川市立小学校へ就学した児の就学時健診の結果を転記させていただいたものである。

※就学時健康調査結果

{立川市 転記済; N=465}

① 身長 (N=464) 平均116.5 CM 標準偏差 4.75
最大130.8 CM 最小 104.0 CM

② 体重 (N=464) 平均 21.3 KG 標準偏差 3.20
最大 40.4 KG 最小 15.1 KG

③ 肥満度 (N=461) 平均 2.68 標準偏差10.48
最大 64.86 最小 -19.9

④ 肥満度 (5%きざみ, N=461)

	人数	%
- 15未満	4	0.9
~ - 10	26	5.6
~ - 5	68	14.8
~ 0	105	22.8
~ 5	110	23.9
~ 10	70	15.2
~ 15	38	8.2
~ 20	14	3.0
~ 20以上	26	5.6

⑤ むし歯

本数	乳 歯				永久歯			
	未処置		処置済		未処置		処置済	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
	N=456		N=455		N=455		N=455	
0	304	66.7	192	42.6	431	94.7	409	89.9
1	60	13.2	33	7.3	16	3.5	22	4.8
2	43	9.4	28	6.2	6	1.3	11	2.4
3	14	3.1	34	7.5			5	1.1
4	16	3.5	43	9.5	2	0.4	8	1.8
5	4	0.9	28	6.2				
6	4	0.9	25	5.5				
7	2	0.4	25	5.5				
8	1	0.2	36	8.0				
9	2	0.4	4	0.9				
10以上	6	1.3	3	0.6				

⑥ 視力 (裸眼)

	裸 眼			
	左		右	
	人数	%	人数	%
	N=457		N=454	
0. 3不可	7	1.5	4	0.9
0. 3可	13	2.8	8	1.8
0. 7可	75	16.4	78	17.2
1. 0可	362	79.2	364	80.2

1-5. 考察

1-5-1. 回収率について

今回の第2回本調査の回収率(40.5%)は、第1回本調査時の回収率(89.9%)を大きく下まわる結果となった。特に立川市立小学校に就学した対象児の保護者からの回収率が低かった理由については今後検討し、次回以降の調査に向けて改善策を講じなければいけないと考えている。しかし、小学校の関係者らからの意見などをもとに、現時点で考えられることは以下のようなことである。今回の調査では、教育委員会や校長はじめ、各小学校の教員らの理解と協力は良好であった。学校によっては保護者宛てに協力依頼文を作成したり、父兄会の際に説明をするなどの後方支援をしてくださったところもあり、教育委員をはじめ、小学校の教員らからは、期待していた以上の理解・協力が得られた。しかし、文書や調査票及び督促状の家庭への配布を、小学校1年生の児童を通して行ったということで、確実に保護者の方の手に届けるのが難しかった可能性があるのではないかという意見が聞かれた。ある小学校長からは、回収率を上げるためには、父兄会など保護者が学校に集まる場を利用(あるいは特別に設定)して、その場で記入してもらい、回収したらどうかとの提案もあった。今回の回収率の低さは、そのまま脱落率の高さを示すものではないが、今後回収率を上げるための効果的な対策について、関係者に相談の上、検討したい。

1-5-2. 生活習慣について

今回得た結果は、第1回本調査の結果と比べ、食事時間の規則正しさ(食事時間が決まっている人の割合：第1回調査では16%、間食の時間が決まっている人の割合：第1回調査では16.0%)、朝食の摂食状況(朝食を毎日食べる人の割合：第1回調査では78.8%)をはじめとして、全体を通して、小学校への入学は、子どもにとって、規則正しい生活習慣をかたちづくる上で、重要なきっかけとなる出来事であるとの印象を受けるものであった。しかし、その一方で塾や習い事に通っている児がすでに431名(74.6%)もあり、そのうちの約1/5にあたる89名(16.4%)は、その行き帰りに何か食べたり飲んだりすると答

えていた。しかもその内容はジュースやコーラなどの甘い飲み物や菓子などが上位に挙げられていた。今後学年が進むにつれ、対象児らの生活習慣はますます夜型に移行することや、飲食物の選択をはじめ、様々な行動を子ども自身で決定する機会が多くなっていくことが予想される。これまで家庭において保護者の庇護のもとにかたちづくられてきた、対象児らの健康や生活習慣も、これからは学校や地域と連携をもちながら、次第に子ども自身が自己管理する能力を高めることができるような方向で支援していく必要があるだろう。

今回ここに示した中間報告の結果は、まだ粗集計の段階である。今年度から新たに加わった児のデータも入っており、第1回本調査の時と同一の集団とはいえない。今後、レコードリネージ等の作業をすすめる中で、生活習慣がこの4年間で(あるいは小学校へ入学したことによって)どのように変化したのか、また、今後どのような方向に変化していくのか、どんな支援策が求められるのかなどについて慎重に検討したい。

1-5-3. 身体状況について

本対象集団の身長・体重の平均値は、学校保健統計(平成7年度)の6才児の結果とほとんど同じであった(学校保健統計；身長：116.8cm、体重：21.7kg)。また、むし歯の本数や裸眼視力が0.7未満・0.3未満の児の割合を、同様に学校保健統計(平成7年度)と比較すると、本対象集団は、問題のある児の割合が全国的な傾向と比べてかなり少なく、保護者や関係者の方々の意識の高さが反映されているのではないかと思われた。

肥満度が15%以上及び20%以上の児の割合については、第1回本調査の結果(3才時点での肥満度)とほぼ同程度であった(第1回本調査結果；15%以上：9.2%、20%以上：5.0%)。

2. 次年度以降の計画

2-1. 1997年度の計画

- 1) 第2回本調査結果をまとめ、対象者への結果返却用のパンフレットを作成、郵送。

同時に住所の確認、調査結果にもとづく健康づくり(健康的なライフスタイル)の関連情報の提供。

- 2) 1)と同様に、関係者(市福祉部、教育委員会、小学校長会、養護教諭等)へ報告。
- 3) 小学校の先生方を対象とした「子どもの健康とライフスタイル」に関する意識調査及び「学校保健活動」に関する調査の実施。
- 4) 3)の調査結果を1996年度に母親を対象に実施した「子どもの健康とライフスタイルに関する不安・関心・家庭での健康法」に関する調査結果と併せて提示し、(健康的なライフスタイルの形成を中心とした)総合的な健康づくり家庭・学校・地域の連携のあり方についての意見交換会の実施。
- 5) 第1回本調査結果と第2回本調査結果のレコードリンケージ及び分析。

2-2. 1998年度の計画

- 1) 2-1. 4)の意見交換会での内容をもとに、介入プランの作成(試行・評価の実施を含む)。
- 2) 第3回本調査の準備。

2-3. 1999年度の計画

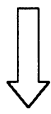
- 1) 第3回本調査の実施(対象児が小学校4年生時)。
- 2) その他。

おわりに

今回の第2回本調査の実施に先立ち、1996(平成8)年度には、保護者の方々を対象に子どもの健康と生活習慣に関する意識調査を実施した。家庭において保護者(母親)が子どもの健康をどうとらえ、子どもの健康づくりや健康生活習慣の形成のためにどんなことを心がけ、実践しているか等について保護者(母親)の方々が記入して下さった回答をまとめた結果、子どもの健康について何らかの不安を持っていた人は277名(60.5%)で、多かったものは、アレルギー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・ぜんそくなどアレルギーに関すること72名(17.2%)、むし歯・歯並びなど口腔の健康に関すること48名(10.5%)、続いて肥満・やせ・小柄など体格に関すること31名(6.8%)などであった。また、生活習慣について、気になることがある人は256名(55.9%)で、その内容をみると、偏食がある・食が細かい・食べるのが遅いなど食に関する事が最も多く89名(19.4%)、次いで起床就寝時刻が遅い・生活パターンが夜型になりやすいなど生活リズムに関すること80名(17.5%)、テレビの視聴時間やテレビゲーム・ファミコンのプレイ時間が長い、外遊びや運動の時間が少ないなど余暇時間の過ごし方に関すること80名(17.5%)などが多く挙げられていた。次年度は、子どもの健康づくりや、健康的な生活習慣の形成に関する学校関係者の意識や取り組みの実際について調査し、これまでの本調査の結果と併せて、家庭(保護者)や学校(教員)双方に結果を周知し、子どもの健康づくりを総合的にすすめていくためには、家庭と学校とがどんな情報や意見を交換し、連携をはかっていくことが効果的であるのかを、ともに考えていきたい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

1992年度に立川市に在住していた3才児(1989年4月2日~1990年4月1日生まれ)全員を対象にコーホート調査を開始した。初回調査は、1989年に立川保健所で3才児健診を受診した1286名のうち、調査の主旨に賛同し、協力が得られた1148名分の調査票が回収された(回収率89.3%)。そのうち、住所・氏名が明記されていた1137名を、以後引き続き追跡している。

今年度は、立川市教育委員会、立川市立小学校校長会、各小学校の先生方のご協力の下、小学校に就学した児を対象に、第2回本調査を実施した。以下に第2回本調査の概略、及び次年度以降の計画について、簡単に報告する。